広報
うまじ
第244号
平成20年12月1日発行

紅葉 山に輝いて

秋が深まってきた頃、千本山登山口まで出かけてみました
渓流に沿った林道のカーブを曲がるたび、あざやかに色を増す紅葉
足下には、薄紫のリンドウが咲きみだれ、山は、まるで宝石箱のようでした

◀千本山登山口吊橋

目次

平成19年度決算 …… 2・3
キャリア教育をすすめる …… 4・5
議会だより …… 6・7
安田川山物語 …… 8～11
Hello! ナオミよ！ ……12
3B体操・いきいき百歳体操 ……13
かっこよくなる男の道場 ……14
Dr.内田のひとりごと ……15
村内あちらこちら拡大版 ……16・17
俳壇・お知らせ ……18
行事予定 ……19
村内あちらこちら ……20

決算

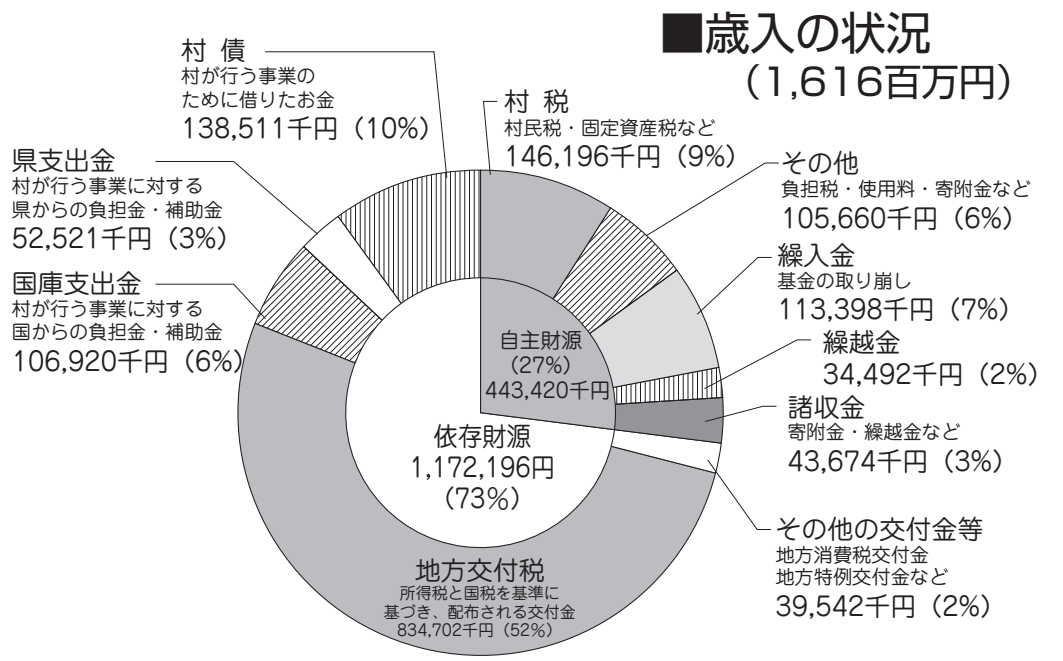
財政指標比較で見る現状

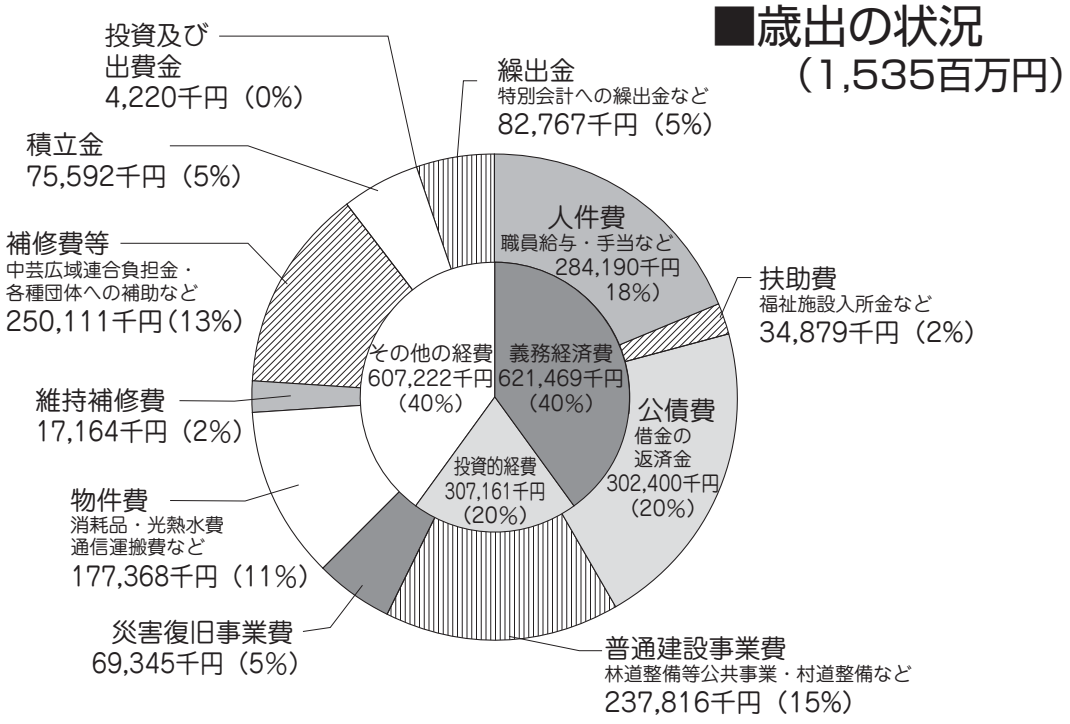
平成19年度の決算の状況を報告します。

平成19年度の決算額は歳入が1,616,616千円、歳出1,535,852千円で、18年度決算額と比較すると歳入で49,934円（3.0%）、歳出で80,444千円（5.0%）とそれぞれ小幅な減額となっています。

これは歳入歳出とも、馬路中学校大規模改修の事業終了によるもの、林道開設事業において災害により、20年度への繰り越し事業となったことによる減額です。

平成19年度一般会計の債入出決算額





平成19年度

19年度

自治体財政健全化法に基づく4つの指標を公表します

○実質赤字比率

実質赤字比率とは、普通会計の歳入総額から歳出総額を差し引いた額と標準財政規模との割合のことです。黒字なのか赤字なのか判断する指標です。

プラス数字ですと赤字。マイナス数字ですと黒字ということになり、馬路村は、－3・75で約37,000千円の黒字となっています。

○連結赤字比率

普通会計だけでなく、国民健康保険特別会計、老人保健特別会計、介護サービス特別会計の歳入総額から歳出総額を差し引いた額と標準財政規模との割合です。

特別会計を併せて黒字なのか赤字なのかを判断する指標です。

馬路村の連結赤字比率は－4・11で約41,000千円の黒字となっています。

○実質公債費比率

公債費（村の借金の返済額）と標準財政規模との割合です。

18％を超えると危険エリアとされていますが、馬路村は16・5％となっています。

○将来負担比率

地方債現在高（借金の総額）、中芸広域連合等への負担金、職員の退職金引当金等一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率です。

馬路村は－91・4％となっています。これは馬路村は標準財政規模を超える基金（貯金）を持っているため、将来負担すべき負債を基金で全てまかなえることを示しています。

※この4つの指標は20年度決算から毎年公表が義務づけられましたので、広報等でお知らせしていきます。

標準財政規模とは

地方公共団体の標準的な状態で通常収入される見込みの経常的な一般財源を示すものです。

標準財政規模＝標準税収入額+普通交付税
標準税収入額＝（基準財政収入額−地方譲与税−交通安全対策特別交付金−地方特例交付金−市町村民税所得割（うち税源移譲相当額）×25％）×75％+地方譲与税+交通安全対策特別交付金+地方特例交付金

平成19年度 馬路村人事行政運営状況

（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）

1. 職員の任免及び職員数に関する状況

採用者　3名（医師含む）
職員数　43名
（平成19年4月1日現在）
退職者　3名（医師含む）

2. 職員の給与の状況

給与の状況については、広報うまじ242号に掲載していますのでご覧ください。

3. 職員の勤務時間その他の勤務条件の状況

○勤務時間の状況
休憩時間を除き、4週間を超えない期間につき
1週間あたり　40時間
始業時刻　8時30分
終業時刻　17時30分
※特殊性のある職務については別途勤務時間を定めている。

○休暇等の状況（平成19年）

●年次有給休暇の取得状況（派遣を除く）

	42人（取得総数）	一人当たり
付与日数	1636日	38・9日
取得日数	435・1日	10・4日
取得率	26・6％	

●病気休暇の取得状況
取得人数　7名
取得日数　73・3日

4. 職員の分限

及び懲戒処分の状況
休職　1名
減給　0名

5. 職員の服務の状況

●育児休業者、介護休暇取得者　1名
●職務専念義務免除の状況　5名

6. 職員の福祉及び利益の保護状況

○健康診断及び人間ドックの実施
健康診断受診者数　13名
人間ドック受診者数　31名
公務（通勤）災害　0件

7. 研修の状況（こうち人づくり広域連合での研修）

○階層別研修　7名
能力向上・開発研修等　42名
パソコン関連研修　0名

魚梁瀬小

『植林体験』

5・6年生7名と中学1・2年生5名は、西又山で植林をしました。登山口には車で45分間、登山口から植林地までは、徒歩で15分ほどで、登りがきついと思いましたが、子どもたちは弱音をはかず、声をかけ合って、何とかそろって到着することができました。

植林した木は、ブナ70本、コナラとイロハモミジ各50本の合計170本です。植林方法は、植樹個所の枯れ葉を取り除き、約15㎝穴を掘り、根のあたりの土をほぐして苗木を埋めます。ヘキサチューブ（鹿の食害対策と温暖化効果）をかぶせ、支柱に固定します。最初は二人一組になり、植樹をしていましたが、慣れてくると一人でどんどんする子どももでてきました。作業を一人ですることは大変ですが、手や足を器用に使って手際よく行っていました。

午後からは、昨年中学生が植林した木の様子を見に行きました。1年経ち、180㎝あるヘキサチューブを超えた木などを確認することができました。ヘキサチューブの役割について説明を受けた後、道中では、腐葉土の保水効果について、鹿の足跡や木を角でひっかいた形跡など森の話に真剣に耳を傾け、また興味深く観察していました。

▶植樹を終えて…。

今回の植林体験は安芸森林管理署の方々の協力を得て、植林作業をしてきました。みんなで協力してひとつのことを成し遂げたり、植林の作業過程を知ることは、キャリア教育の視点からも、郷土愛を育むという視点からも大切なことだと思います。子どもたちが大人になったとき、植樹した木の成長と未来の自分を重ね、思いをめぐらせてくれることを願いながら、山を後にしました。

『米作り』

5年生の社会科では日本の食料生産について調べ、農業や漁業と自然とのかかわりや、私たちの暮らしについて学習します。

学校内でアンケートをすると、お米を栽培している農家が予想より少なかったことやほとんどの家庭が高知産のお米を食べていることが分かりました。村で栽培をやめたり、減したりしている理由は、米作りの仕事は大変でそれだけでは生活しにくいということです。また、柚子作りがさかんになったので、両方を栽培することが大変になったこともあげられていました。

さらに、5年生は去年体験している6年生に習いながら、実際に米作りの体験もしました。

約170平方メートルの田に苗を植え、収穫高の予想を90kgとして頑張って育てることにしました。

5月に田植えをした後、稲はぐんぐん育ち、心配していた台風の被害もなく、きれいな水と太陽の恵みを受け、夏には花を咲かせ、穂に実がつきだしたので、「おどし」にかかしとミラーテープを田んぼに仕掛け、雀や鹿に食べられないようにしました。

馬路小

▲稲刈り「中腰の作業は大変だぁー」

10月3日にはALTのナオミ先生と一緒に鎌で稲刈りをしました。どろまみれになりながら、刈り取った稲は木と竹で枠を組んではでを作り、天日干しにしました。田んぼの中に木を立てるのが難しく、何度も何度も倒れそうになりながら、やっと、はでに干すことができました。

脱穀を終え、収穫量を計ると150kgと予想以上のできだったので子どもたちはうれしくなりました。

早速、給食で食べたり食改さんとのお寿司作り、通学合宿でのお釜炊きなどで使い、みんなに味わってもらいました。

汗を流し体験することで、働くこととはどんなことなのか、助け合って働くことのすばらしさを学んでいます。これも大切なキャリア教育の一つです。

馬路中

『地域社会や学校で育てたい力』

8月と10月にキャリア・アドバイザーとして、馬路診療所の内田先生とハローワーク安芸の西田さんをお招きし、自分の歩んできた道や職業についてのお話をしていただきました。

お二人の話に共通していたことは、早く自分の夢や目標を持ち、それに向かって努力することや、ひとつのことをやりきることが大切だということです。そして、地域社会や企業等が、どのような人材を望んでいるかというくだりでは

①熱意・意欲がある人
②コミュニケーションがとれる人
（挨拶ができる人）
③自分で考えて仕事ができる人
（学ぶ姿勢がある人）

などが、あげられていました。

①の熱意・意欲を持って仕事をするためには自分の適性を知ると共に、仕事のやりがいを見つけることが大切だということですが、そのやりがいをみつけるためには辛いことや面倒くさいことを乗り越えて初めてわかるそうです。やはり、忍耐力もつけておかなくては、社会に出てから困ります。

◀経験談を語る内田先生

①～③は今からでも十分つけることのできる力だそうです。
馬路村の子どもたちの未来のために地域や学校が一つになって頑張っていきましょう。

②のコミュニケーションのとり方では、学校で仲の良い友達と話ができても社会では使えない時があるということ。社会に出たら相手を選べない、気持ちの通じない相手といかにコミュニケーションをとるか。そのためには普段から、聞く力、感じる力、伝える力を磨き、明るく挨拶ができる子どもを育てる必要があるということでした。

③は学力をつけていくことは、もちろんのことですが学び続ける姿勢を持つことの大切さを改めて感じました。講師の先生のおっしゃった「人を判断するのは、学歴ではなく、学習歴である」という言葉には説得力があり、社会に出ても、学び続ける子どもたちを、どう育てるかというのは私たちのこれからの課題でもあると思いました。

魚梁瀬中

『みんなで作り上げる』応援合戦

魚梁瀬小中学校では、毎年運動会で応援合戦を行っています。応援は主にエール、手拍子、メイン（曲を用いた創作ダンス）で構成されています。この応援合戦のためにまず中学生が約10日間かけて、どのような応援の流れにするか、メインで使う曲を何にするか、またその振り付けや隊形等をどうするかといった話し合いを持ち、下準備を進めていきました。

9月12日から小中合同の応援練習が始まりました。中学生が練習内容を伝え、指示を出しながら小学生に教えていきます。しかし、分かりやすく的確な指示を出さないと小学低学年の児童たちにはなかなか伝わりません。初めての合同練習では、中学生が集まって内容の打ち合わせをしたり、動きの確認をする場面が多く見られ、練習時間を有効に使うことができませんでした。練習後の反省会では「自分たちの準備が十分でなく、小学生にうまく指示が出せなくて迷惑をかけてしまった」というような言葉が出ていました。

本番までに6回の合同練習を行いましたが、その過程を通して中学生たちは、自分たちが責任感をもって小学生をリードしていかなければ前に進んでいかないこと、小学生に自分たちの思いを伝えることや動き方をわかりやすく教えることの難しさ、限られた時間の中で練習を計画的に進めていくことの大切さなどを学びました。

運動会当日の応援合戦の時間は各チーム10分足らずでしたが、それまでの取り組みは生徒たちが自ら主体的に学ぶ場となりました。

▲応援合戦本番　練習の成果を披露

議会だより No.114

9月定例会

平成20年9月定例議会は、9月11日から18日までの8日間の日程で行われた。
初日は、諸般の報告の後、工事請負契約の変更の決定、教育委員会委員の任命同意、平成19年度財政健全化判断比率の報告を受けた。その後16議案の提案説明が行われた。
12日から16日までは議案精査のため休会とし、17日は一般質問を2氏が行い、その後議案の質疑採決を行い閉会した。

一般質問

問 山中　隆議員

①森・川・海について

本年度も安田川の漁況は不漁でほとんど鮎が捕れないと聞くが、国有林に原因があるのではないか。大きな木を伐採すると、その影響で土砂が流れ淵をなくし魚が生活できなくなる。また、先日安田川水系資源保護推進協議会総会も行われ、川の汚染、家庭排水、産業排水の話も出たと聞いている。鮎の遡上に関しては早急に手を打たないと来春には間に合わない。具体的な改善策を問う。

答 村　長

六月議会でこの問題の質疑があり、七月七日に鮎の対策について、馬路村、安田町、安田川漁協の三者で協議を行った。近年、森林環境、家庭環境、社会的、構造的環境が変化していく中で特に地球温暖化の影響で安田川の生態系も大きく変わってきている状況である。村は放流予算を組んで現在安田川漁協に放流をお願いしている。漁協には、河口の閉塞対策や冷水病研究をして鮎の復活を提言してきたが取り組みがにぶいようで、今後三者の話し合いで一定の方向が決まったら具体的な取り組みに進めるのではないかと考えている。

②福祉行政について

本年度の行政方針と予算の概要の中の福祉行政で、住民の目線に立った現場主義を徹底し、福祉のダムを築く、そのためにデイサービスセンターを拠点とした介護サービスの充実を行い村民に頼られる介護予防事業の再整備を行うと書かれてあるが、それに対してどのような成果があり、今後どのように向かっていくのか。

次に、馬路村社会福祉協議会は、役員の入れ替えがあり、デイサービスセンターでは職員の体制が変わり、今まで職員だったものが臨時になったことも聞いている。そういうことは福祉の前進でなく後退につながるものと思うが、今後、馬路村の社会福祉のあるべき姿はどのようなものか。

答 村　長

馬路村で生活されている方たちが医療、福祉において村外施設に入所しないで村で住み、暮らしていこうということを例えましてダムと表現したものです。

社会福祉協議会は理事六名、監事二名、評議員十三名で運営し、実務は事務局長、社協とデイサービスで職員四名の合計五名と臨時職員三名で状況に応じて対応している。この業務は、子どもから高齢者まで誰もが安心して住み慣れた地域で暮らしていける村づくりを目指している。十三項目の目標をかかげ、同時に介護保険事業に関わるデイサービスの運営を行っている。しかし、介護保険料だけでは運営できないため、不足分を村が補填している。

福祉行政が今後どのように進むべきかは、村では介護にかからないようにする高齢者福祉対策に力を入れ、お年寄りが安心して元気に生活していけるような仕組みづくりに努めたい。

③教育行政について

近隣町村では夏休みだけでなく学童保育が行われ、有料であるが色々な行事を行い地域も喜んでいると聞く。馬路村でも見守り活動をやっているが、もう少し積極的な取り組みはできないか。

また、愛校作業について、PTAが学校施設の清掃をしていると聞くがどうも単発的で事業として行われていない。今年の夏休みは地域の方がボランティアでグラウンドの草刈りをされたと聞く。地域と親子が教育施設をきれいにすることは大切なことだと思うが、このような取り組みをしてもらいたい。

次に婦人会組織について当初議会で教育長はそれに代わる組織を作りたいという答弁をしている。これまでどんな努力をし、どういう方向に進んでいるのか問う。

答 教育長

夏休みの子どもの生活、居場所対策について、共稼ぎで昼間子どものみがいる家庭は学童保育といった希望があると考えられる。教育委員会では今年から放課後子ども教室を行っている。夏休みは、子どもの体験教室などを実施している。今後はニーズを聞きながら子どもの望ましい夏休みの過ごし方や教育委員会のできる対応の仕方について検討していきたい。

愛校作業については、毎年PTAの方に体育館を中心に行ってもらっている。

婦人会の組織化のことについては解散の経過や背景から

容易に組織化ができるとは思えない状況である。しかし、職場や地域の枠を超えた女性団体の必要性は、解散した婦人会の会員の皆様も感じておるところであり、教育委員会では、できるだけ負担にならない形でボランティア活動の取り組みのお願いを個々に当たることから始めている。

問 **五味隆仁議員**

①教育問題について

全国学力テストが去年、今年と二年連続で実施され、高知県は下から二番目であった。その分析の結果、基礎学力は全国並みであるが、応用力は全国よりぐっと下がっている結果となっている。そういう中で馬路村教育委員会としてこれからどうしていくのか問う。

答 **教育長**

学力テストの結果、県教育長は、あらためて授業改善と家庭学習の定着に取り組む姿勢を強調している。特に高知県は中学生の学力に課題があり向こう四年間で基礎学力を全国水準まで向上させる目標を掲げた。この調査の最大の目的は学校や児童生徒の課題の把握にあると考えている。小人数であるからこそ一人ひとりの学習状況に対応した改善や学習意欲の向上につなげる取り組みをしていくよう、校長、教頭会で話し合った。具体的には小中学校の連携、到達度把握検査の分析活用で、授業改善と指導の工夫や保護者の理解を求めて家庭学習の定着推進を図りたい。

議案と審議結果

九月定例議会には、同意議案一件、認定議案六件、議案九件、議員提出議案一件それぞれ提出され、いずれも可決された。（抜粋掲載）

○教育委員会委員乾治氏は平成二十年九月三十日をもって任期満了となるが引き続き適任者と認め同意をした。

住所　影
氏名　乾　治
（七十一歳）

○平成十九年度馬路村六会計歳入歳出決算の認定について（監査委員意見書後載）

○中芸広域連合規約の一部を変更する規約について

中芸広域連合では、火葬場の設置管理運営に関する事務、及び保健福祉に関する事務を追加する。

○平成二十年度一般会計補正予算（第三号）について

歳入歳出それぞれ五千三百万円を追加し総額それぞれ十五億八千五百九十一万九千円とする。

主なものは、日浦大門住宅解体工事二百八十万円、林道西谷朝日出線災害復旧工事、一千九十万円、西谷川河川災害復旧工事五百九十四万円などである。

○平成二十年度馬路村国民健康保険特別会計補正予算（第一号）について

歳入歳出それぞれ一千九百九十万円を追加し総額それぞれ一億九千九百九十万円とする。

主なものは、一般、退職高額医療費、一千百三十万円などである。

平成十九年度 決算審査意見書

平成十九年度馬路村一般会計・各特別会計歳入歳出決算審査意見書をそれぞれ執行機関の長に提出した。（内容抜粋）

十九年度の決算額は、全会計総計で歳入二十一億七千九百九十六万五千円、歳出二十億九千三百九十六万九千円である。歳入の内自主財源の構成比は、二十七・五%、依存財源は七十二・六%となっている。歳出の状況は次のとおりである。（抜粋）

●個別意見の概要

①総務費は二億四千九百九十五万円でバス運行補助金百十九万六千円などがある。

②民生費は一億九千百四十四万七千円で児童福祉費の、六千十万九千円は、保育所にかかる経費である。

③衛生費は一億四千八百四十一万五千円で中芸広域連合負担金が大きく占めている。

④農林水産業費は一億九千四百六十二万九千円で　前年比で九千七百七十六万一千円減少している。その主な理由は林道費一億二千七百五十九万五千円が災害のため繰り越した事による。

⑤土木費は、五千五百四十万九千円で前年比で増加している。

⑥教育費は、一億三百九十二万八千円となっている。前年比減であるが、中学校耐震補強及び改修事業の終了によるものである。

⑦五特別会計は歳入五億六千四百三十五万円、歳出五億五千八百十一万八千円実質四百二十七万三千円となっている。一般会計からの繰入額は、八千二百四十三万一千円となり増加している。

意　見　書

今定例会では、意見書議案一件が可決され、国の関係機関に提出された。

○介護保険制度の改善を求める意見書

介護の報酬の引き下げにより事業所の経営難、厳しさを増す現場の介護労働と人手不足は地域福祉基盤を揺るがしている。介護職員が生き生きと働き続けられる環境整備を求める。

・介護報酬を引き上げ、人員配置基準の見直しを行い、職員の給与・労働条件の改善の実現。

・利用料、保険料、居住費・食費負担を軽減するとともに、サービスの利用制限の取りやめ、必要な介護が適切に保証される制度に改善する。

安田川山物語（やすだごうやま） ― 長滝檜立山（ながたきひのきたてやま）のふもとで(1) ―

はじめに

天然のスギやヒノキ、モミ、トガなどを切り出し、森林鉄道やトラックで運び出す国有林野事業によって栄えてきたのが馬路村である。営林署が馬路・魚梁瀬の2か所にあり、昭和41年には両署で464人の職員数（定員内外を合わせて）であった。民間の素材生産業者や土木建設業者、製材所、炭焼き、かじ屋など林業に関連した事業や職種も発達した。それにつれ多くの人が出入りし、旅館や飲食店、映画館、パチンコ店、パーマ屋、風呂屋、紳士服の仕立て屋、クリーニング店、アイスケーキ屋などもあり、村人は勤労意欲に満ち、それほど豊かではなかったかもしれないが現金収入が得られ活気があった。村外から来る営林署の職員は、新しい文化やスポーツ活動も村へもたらした。

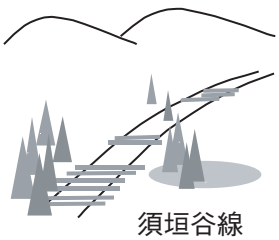
国有林といえば千本山に代表される魚梁瀬の森林資源が有名であり、山と魚梁瀬集落の移り変わりは運命共同体であるかのように新聞やテレビなどでも取りあげられてきた。ダムの建設という衝撃的な出来事も加わった。一方で馬路でも、規模は魚梁瀬山に比べるべくもないが、多くの村人が同じように国有林野事業にかかわってきた。家の働きがしらとして山に入り、小屋で寝泊りをして木材を切り出す作業に携わった。その彼らの仕事や生活のいったんをここに記録し、足跡をしるしておきたいと思う。むろん山の歴史をことこまかく追うものではなく、小屋で寝泊りをして山仕事をすることが当たり前であった時代の最終章に、いくばくかの光を当てておくべきだとの思いからである。

元営林署作業員を訪ねて聞き取りを行った。最高齢者は90歳半ばであるが壮健である。しかし病魔や不慮の事故で若くして帰らぬ人となった者もいる。

戦前から昭和※1 36年頃まで伐採・搬出が続いた森林鉄道須垣谷（すがきだに）線沿線の、終点近く長滝檜立山（ながたきひのきたてやま）のふもとに小屋があったころを、彼らの語りを中心に安田川山（やすだごうやま）※2物語としてまとめた。

説明※1　年月やその他の出来事もなるだけ事実に即するが、紙幅が限られるなかで、多少時代の重複等が生じることを了承願いたい。

2　安田川山とは厳密にいえば、稗己屋山（ひえごややま）や中岡山（なかおかやま）があるように特定の山地をさしたものである。しかし現場の作業員や住民は、安田川上流域にある国有林全域をも通常「安田川（やすだごう）」と呼んだので、ここでもその使い方をする。仕事や生活の様子を物語としてまとめ、1年間の連載を予定する。



須垣谷線

昭和30年　ある朝

米とつけ物、着替えを背負い袋に入れ、まだ布団に寝ている子どものひたいをさすりおいて、実家を出たのが5時前だった。〝北路（きたじ）の鉄橋〟から奥へは森林鉄道安田川山線の軌道をたどる。まだ朝が明けておらず、懐中電灯をもつ。

一昨日、子どもがケガをしたとの連絡をうけ、仕事を終えて急ぎ小屋を出た。16㎞の道のりを歩き、家へ着いたのが午後7時半であった。幸いケガもたいしたことがなく、今日の仕事に間に合うように山へ戻るつもりである。出来高仕事なので仕事を休めば収入が減る。土川（つちがわ）までくるとまわりも白み、朝飯の準備だろう、山手の民家から幾筋か煙があがっている。昭和30年、ある日の朝である。

◇◆◇

安田川山の現場業務を管理する事務所が久藪にある。そこからこの物語の舞台となる長滝檜立山方面へ入りこんでいる支線、須垣谷線（久藪（ひさやぶ）から終点まで総延長10・7㎞）へ移る。近道をあがり10分あまり歩くと1号※1インクラインへついた。

山々は霧に包まれ、インク

須垣谷線　延長10・7km
2か所のインクライン

ラインでは朝つゆにぬれた3本のレールが一直線に山の上へ伸び、途中からは霧の向こうへ消えている。そのはずだろう、このインクラインは350mの長さがあると聞いている。ジグザグに折り返した急な作業道に息をきらし、上段の軌道までやっとたどりつく。グリースにまみれてにぶく光っているインクラインの制動器へちらっと目をやり、ふたたび足早に軌道を歩く。

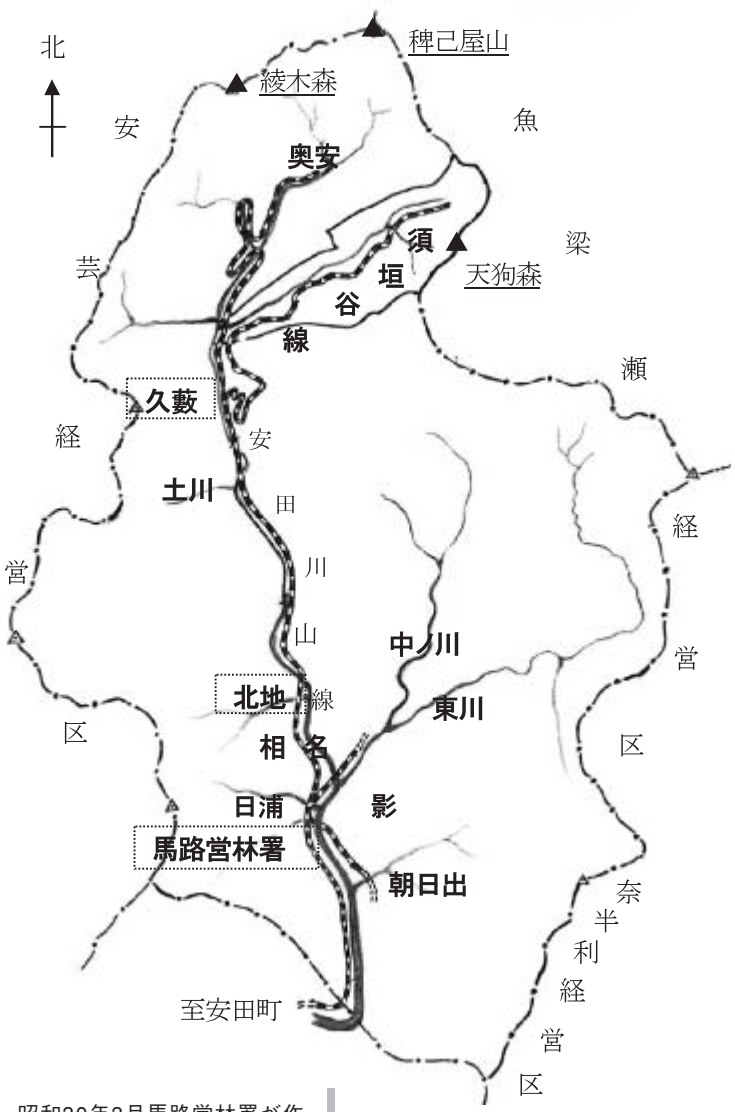
軌道から上はみごとに切りつくされている。小さなウネ[※2]、サコをまわるたびに、左下の長滝谷川から水音がとぎれとぎれに聞こえてくる。途中にも小屋があって、以前はここで寝泊まりをしていた。屋根は杉皮ぶきで、ランプ生活だった。その後、伐採・搬出の現場が奥地へと伸びたので今の小屋へ移っている。やがて右手の天狗森方向から流れ込んできている谷川（正式の名称が不明なので『天狗の谷』と呼ぶことにする。）の橋を渡ると2号インクラインがある。1号と2号との間が5km余りで、徒歩だと1時間を要する。

◇◆◇

近くに「そま小屋」[※3]があり、長滝谷川をはさんで「ひよう小屋」[※4]と「ぞうりん小屋」[※5]もある。山仕事は分業化され、職種ごとに棟を分けて小屋がある。仲間の多くが家を離れてここで暮らしている。日用品を販売する「購買」や小屋に電力を供給する「水力発電施設」、共同利用の「風呂」、「水場」もある。部屋に荷物を降ろす。弁当袋だけを持ち、ナタとノコギリを腰につけて小屋を出る。貨車へ木材を積み込むのが今日の仕事だ。

小屋は天狗の谷との合流点に

発動機のエンジン音が聞こえ始め、積み場が近づく。いち早く自分を見つけたゲンキ（27）が「おう　早かったねや。子どもはどうなら」と声をかけてきた。「おおきにこたぁ　なかった」と返し、弁当袋を近くの枝にひっかけて、ツル[※6]を手にする。霧も晴れ、1日の始まりだ。



昭和30年3月馬路営林署が作成した管内図から、安田川山を中心に模写したものである。須垣谷線は久藪からいったん下へさがって折り返し、長滝谷川沿いに奥へ延びている。作業員の住む小屋群は天狗の谷との合流点近くにあり、この一帯が物語の舞台である

【※言葉の説明】

1インクライン　山の上部へ向かうには、山腹を大きく蛇行しないと森林軌道を布設できない。それをさけて斜面へ直にレールを敷き、貨車にのせた木材を1台ずつ自重でつりおろした。この方式をインクラインと称した。

2ウネとサコ　等高線が川側にふくれて凸状になった個所をウネ、逆に凹状になった個所をサコという。サコには水が集まり谷になりやすい。

3そま　木を切り倒し、定められた長さ（4mが基本だが5m以上や3m以下にもする）に切って搬出ができる状態まで仕上げる職種。

4ひよう　そまが仕上げた木材を集め、貨車に積み込んで貯木場まで運べる状態にする職種。

5ぞうりん　木材を伐採・搬出したあとへ再び苗を植え、下刈りや除間伐など苗が成長するための手入れをする職種。

6ツル　山仕事の必需品で、鶴のくちばしに形が似ている金具を木製（カシノキ）の棒の先につけた道具。木材に打ち込んで引っ張ったりテコにして回したりした。

久藪（ひさやぶ）の現事務所は昭和16年12月に新築された。面積は34坪である。その後、19年7月に74坪の客室も併設された。日浦にある馬路営林署から7.9㎞安田川をさかのぼった現場事務所である。

そのほかにも事務所員や作業員が住み込む宿舎、日用物品を販売する購買などが建てられている。日々の安全を祈願する〝山の神〟も近くにある。長滝檜立山周辺での事業が完了する昭和30年代後半まで、山の仕事と生活が一体となってここにあった。

久藪で本線から分かれた須垣谷線は、いったん須垣谷川の方へさがってから折り返し、2か所のインクラインをこして長滝谷川の左岸を、長滝檜立山の奥地までつっこんでいく。久藪から終点までの総延長は10・7㎞であり、標高差は500mをこえる。戦前、この線は須垣谷川へ入っていたのだが、そこでの事業が終わったので途中から先は廃線となり、名称をそのままに長滝谷川の奥へ新たに延びているのだ。

昭和36年にここでの事業が完了すると、事務所は本流上流の奥安（おくやす）へ移る。その数年後には自動車道に切り替わって通勤が可能となり、安田川山最後の現場事務所の役割を終える。

❶　ちょうなを使って受け口を切っている。この日は作業安全と、木材の損傷をなるだけ防ぐための伐倒技術向上の講習が、山の現場で行われている

❼　中の小屋。丸太を組んで敷地を造成した。左端が水場で、別棟が風呂場と便所

❽　久藪にある事務所と周辺。中央右にある玄関を構えた事務所へは、コンクリート製のとび石を伝っていく。所内には卓球台もあった。その右奥に事務所員、作業員の宿舎が、中央左には事務所員の宿舎をはさんで炊事棟や、写真ではきれているが客室が続く。前の畑では野菜もつくった

❾　民有地を借り受けて主にスギ苗を育てている苗畑（3,276㎡）。天然木のうち優良な親木から種を採取し、畑にまいて育てた。さし穂でも育てた。右下は作業員の住むスギ皮ぶきの小屋である

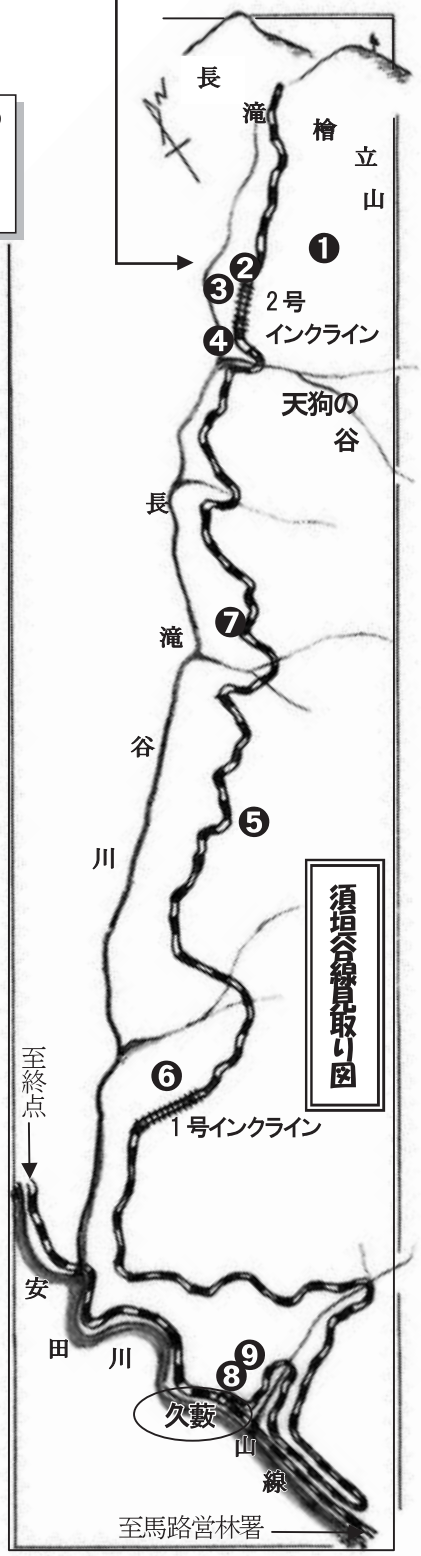
❷　2号インクラインの制動器。制動器からのびたワイヤーを、木材を積んだ貨車に結んでインクラインの斜面をつりおろす。中央に見えるワイヤーは下の空車に結んである

❸　2号インクラインの全景である。途中の複線区間で、木材を積んだ実車と空車がちょうど行きちがっている。長さは160mである。上段にある制動器②はここからは見えない

❹　2号インクラインの下、谷沿いにある作業員の住む小屋。右端のひさし部分に購買がある。小屋は対岸にも3棟ある

❺　2号インクラインをさがって1号インクラインまでの区間、5.5kmのあいだを運行する山内（さんない）軌道。制動夫が木材の上をとび渡ってブレーキの操作をしている

❻　1号インクラインの制動器。このインクラインは長さが350mあり、ここをさがると再び貨車を機関車に連結して、久藪の事務所を経て日浦の営林署まで木材を運ぶ。制動手は左の木製の階段を上がったり下ったりした



注）写真等の資料は安芸森林管理署の協力を得た。

外国語指導助手　ナオミ・クロスビー・イワサキ
（アイルランド　ダブリン出身）

“ハロウィーン”
「日本のお盆に似てる!?」

ハロウィーンは、実はアイルランドで始まったものだということをご存じでしたか？

ハロウィーンはケトル族（古代ヨーロッパにいた種族で、アイルランド人の祖先）の古代宗教の儀式のひとつなのです。この儀式は年に4つの神聖なお祭りがあり、そのひとつがSamhain（アイルランド語で「サヴィン」と発音し、11月という意味）で、11月1日にお祝いをしますが、とても大切なお祭りです。それはケトル族の新年の始まりを表し、Samhainの前日である10月31日が夏の最後の日なのです。

また、それは日本のお盆に少し似ていて、ケトル族は、死者たちの霊が人間の体に入り込もうとして地上にもどり、その夜に、霊界と現世が融合すると信じています。それで、ケトル族は衣装を身につけ、大声を出して霊を追い払います。おばけや悪魔のような衣装を身につけることにより、本物のおばけが人間を探すのに手間取り、逃げていくことを願っています。丘の頂上で火を焚いて死者の霊を追い払ったりもします。

8世紀に、カトリック教会は11月1日をキリスト教のすべての聖人を祝う「万聖節」とし、その前夜の10月31日を「All　Hallows　Eve」つまり、ハローウィンとしたのです。

▲おばけのお面でぇ～きた♪

アイルランドが発祥の地

▼スナップアップル（ハロウィーンのゲーム）

アイルランドでは、カブに顔を彫り、カブの中に火を入れて、中を照らしていました。これは、天国にも地獄にも行けずに地上をさまよっている失われた魂を表しています。しかし、大飢饉のため19世紀にアメリカに渡ったアイルランドの人々は、そこでカボチャを見つけてカボチャに顔を彫ったのです。また、リンゴやオレンジの皮をむいて床に落ちてできる文字が、将来結婚する相手のイニシァルを表すと言われています。もうひとつの言い伝えはbarmbrack（バームブラック）と呼ばれるケーキです。一枚の布、一枚のコイン、一個の金の指輪をケーキの中に入れ、ケーキを切り分けたとき、布を手にした者は将来金銭的に困り、コインを手にした者は将来お金に恵まれ、リングを手にした者はすぐに結婚できる、と言われています。

スーパーガール登場

これで、皆さんはハロウィーンがアメリカやイギリスやドイツを起源とするお祭りではなく、アイルランドのものである、ということがおわかりになったことでしょう！

馬路村に3B体操上陸

「あっはっはっは」
「ああ、おがしい」
「おおの、だれた」

最近就業改善センターからこんな声が聞こえるのを聞いた方がいらっしゃると思います。

これは、〝3Bゆず〟活動中の声です。

3Bゆずとは、体操グループの名前で、今年4月から就業改善センターで毎月2回、健康のために3B体操を行っています。

3Bゆず

3B体操とは

ボール、ベル、ベルターという3つのBで始まる用具を運動の助けとして使用しながら、音楽や歌等に合わせて集団で楽しく行う健康体操です

赤ちゃんからお年寄りまで誰でも楽しむことができ、全国5,500カ所で教室が行われています。

【活動の様子】

練習

敬老会

【参加者の声】

体操を始めてから、今まであまり交流のなかった別の地区の人とも友達になれて、とても楽しいです。

また、普段あまり使わない筋肉を動かすことで背筋が伸びたり、体操以外でも自分の健康に気をつけるようになり、良い効果だと思っています。

10月には宿毛で開催された高知県大会へも参加し、色々な取り組みを学び、自分たちの体操を披露してきました。600人以上の大きな大会で緊張もしましたが、とても良い経験でした。

【問い合わせ・参加申し込み】

3Bゆずでは、一緒に体操する仲間を募集しています。

老若男女どなたでも参加できますので、毎月第2・4土曜日の午後1時30分から、就業改善センターへお越し下さい。

お試し体験も歓迎します。

3Bゆず　代表　岡田数子
電話44−2646

いきいき百歳体操

高知市発祥で、全国に広がっている筋力向上のための「いきいき百歳体操」の「大交流大会」が、10月28日に高知市で行われ、馬路村からは、既に体操を行っている東川と、これから始める予定の影・日浦地区から合わせて15名が参加しました。

県民体育館がいっぱい

当日は、高知市の「しんぼり地区認知症を支え合う実行委員会」による劇が行われ、その中でとてもためになるお話がありましたので、紹介します。

県内外の様々なグループの取り組みの発表、講師による介護予防ライブ、90歳以上の参加者への表彰等があり、笑ったり感心したりとても楽しい一日でした。

週1〜2回、一時間弱の体操ですが、心にも体にも多くの効果があることを実感することのできる、良い機会となりました。

寝たきりと認知症にならないための7つのポイント

①1日1,500mlの水分補給（200mlのコップで約7杯）
②一日1,500キロカロリーの食事
③便秘にならないこと（3日以上ためない）
④運動すること（ウォーキング3kmが理想）
⑤外出をすること（一日1回以上の外出）
⑥趣味をもつこと（1つより3つの方がよい）
⑦仲間をつくること（多い方が良い）

かっこよくなる男の道場

◀理想のからだをめざす参加者

▶採血のあと血液流動状態の説明を受ける

体験記「楽しんでやるのがコツ」

三宅眞理

万歩計を渡された。今年の夏は暑かったから、家の廊下をFMを聞きながら、ひたすら歩いた。畑仕事は万歩計で計れないのでは?確かに、万歩計は都市生活のツールである。毎食後平均一時間。朝は空腹で目を覚ます。

診療所の内田先生が音頭をとっていることで分かるが、「料理」を作ることが主眼ではない。メタボ、生活習慣病の予防と対策。いつの間にやら、腹部がブックリしてきて、頭部が薄くなってくる。加齢とともに衰えていく体力と容色を、いかに保ちつつ鍛え直すか。歩くことのほかに、筋トレとして、たった三つのエクササイズを、ゆっくりと一日十分続けるなど。要は、脂肪を筋肉に変えることで代謝率を上げていく。早くからだが燃えてくるので、それが分かる。持続させるコツは、何事によらず楽しんでやる、この一点に尽きる。カロリーを抑えた食事ばかりでは、無性にジャンクフードが食べたくなる。たまに気を抜いてやることも長続きするコツである。

「かっこよさ」「健康なからだ」への追求

平成十八年度、馬路村国民健康保険被保険者の一人当たりの医療費は、約六十五万円。残念なことにこの数字は、高知県下で一位でした。

そこで、その対策の一つとして馬路村健康づくり推進協議会では「かっこよくなる男の道場」を実施しています。

参加者は、十九人全員が男性です。メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）が気になる人、やせたい人、健康なからだへと体質改善したい人などさまざまです。

道場は毎月一回。講師は、次の方々です。

馬路診療所　内田医師
高知大学医学部　都竹茂樹准教授
トマトの会会長　西森管理栄養士
高知県健康運動指導士会会長
　池添伊佐子さん

健康、栄養、運動についてそれぞれの専門家であるため、とてもわかりやすい講義内容です。また、講師と一緒に夕食を囲むため、質問等参加者からの積極的な発言が多く、みんなで学びを深めています。

参加者の中には一日一万歩以上歩いている人、すでに六kgやせた人など、自分の目標に着実に向かっています。

◀「青菜のみそごまマヨネーズ」に挑戦中

住み慣れた村でいつまでも健康でいきいきと暮らしていくために、楽しみながら学び、気づくことによって一人でも多くの人が、十年後、二十年後に医療を必要としない、健やかな心とからだの維持、改善につなげてほしいと願っています。

馬路村健康づくり推進協議会
事務局　役場健康福祉課

『馬路村てくてく隊員』募集中

近ごろ村内でウォーキングやジョギングをする人を見かけることが多くなってきました。健康や美容のために非常に良い傾向です。

そこで、多くの人の共通の敵、「三日坊主」を倒すために村では、「てくてく隊」をつくることにしました。

隊の目的：ウォーキング等の運動を行い、隊員それぞれが自らの健康に磨きをかける。

活動内容：初日は万歩計「てくてくエンジェル」貸し出し＆健康ミニ講話への参加。
2日目～「てくてくエンジェル」というパートナーと共に4カ月間運動活動をする。
4カ月目「てくてくエンジェル」とのお別れ会

隊員応募資格　馬路村の住民で、4カ月間ウォーキング等の運動を続ける意欲のある人。先着15名。

応募締め切り　平成20年12月24日

問い合わせ・申し込み　役場健康福祉課　TEL　44－2112

～Dr.内田のひとりごと～

「肩・腰・膝などあちこちの痛み」

日に日に寒くなってきました。早いものでもう12月、今年ももうすぐ終わりですね。柚子の忙しさも一段落といったところでしょうか。しかしこれからたまった疲れがでてくる頃かもしれませんね。

今回は「肩・腰・膝（ひざ）などあちこちの痛み」について簡単に書いてみます。

原因

肩・腰・膝の痛みはそれぞれ病気によって原因が違います。しかし、以下のように共通したものもあります。

同じ姿勢が長く続くと筋肉が疲労して硬くなってきます。また、運動不足や肥満、全身の疲れなどでも筋肉の血行が悪くなり筋肉疲労を起こしやすくなります。

また、年齢とともに関節を支える筋肉が弱ってきて不安定となります。そのため体のバランスにゆがみが生じ、それが肩や腰、膝の痛みの原因の一つにもなります。

最近ではストレスも原因の一つといわれるようになってきました。

肩こりや腰痛から内臓の病気が見つかることもありますので、はっきりした原因が分からないまま肩こりや腰痛・関節痛が続く場合はご相談ください。

予防法

◆同じ姿勢を長時間続けないでください。同じ姿勢でいるときの筋肉が耐えられる時間は30－40分とも言われています。定期的にストレッチなどをして休憩しましょう。

◆物を持ち上げるときはしゃがんで腰を伸ばし、物を体につけるようにして持ち上げましょう。中腰が一番いけません。

◆高い所からものをとる場合は背伸びをせず踏み台などを使って無理しないで取りましょう。

◆畑仕事や重いものを運ぶとき、スポーツの前などはストレッチをして体を温めてからはじめましょう。

◆腹筋や背筋・太ももの筋肉をつけることで腰や膝の負担を減らし、結果的に腰痛や膝痛を和らげることもあります。筋トレの方法などいつでもご相談ください。

その他

疲れたなあと思ったら無理をせず休みましょう。ゆっくりとお風呂につかってストレッチをすることでも疲れを残しにくくなります。

布団が柔らかすぎたりかたすぎると背中や腰に負担をかけることにもなりますので、気をつけてください。

注意すること

柚子の時期はみな無理して収穫したい気持ちもわかります。しかし、「転んで痛かったけど我慢していた。柚子が終わってレントゲンを撮ったら肋骨骨折だった」「柚子のバラがたったけどそのままにしていた。2週間ほどして腫れてきたので受診したら化膿していた」など、柚子にまつわるエピソードは私が色々と経験しました。柚子も大事ですが、自分の体も大事です。

こちら 拡大版

いつもの村内あちらこちらの枠を超え、

「ゆずはじまる祭」

11月2日（日）ゆずの森をメイン会場に今年で3回目となったゆずづくしのお祭りは、約3,000人の観光客でにぎわいました。

「JAZZコンサート」

11月3日（月）♪JAZZ♪の調べに酔いしれた一夜でした。（就業改善センター）

「山師達人選手権大会」

11月9日（日）魚梁瀬丸山公園内で馬路村林業青年クラブ主催による山師の技を競う大会が催されました。参加は、男性の部14チーム、優勝は「とされいほくA」、女性の部5チーム、優勝は「26」でした。

「マジックショー」

11月2日（日）馬路温泉で行われた「マジックショー」でプロのマジシャンと同じ舞台に立ち腕前を披露する「うまじっくクラブ」のメンバー。

「魚梁瀬の自然体験と温泉観光ツアー（秋のツアー）」

春のツアーに続き今年度2回目のツアーを11月16日（日）に開催し、村内外から35名の参加者がありました。

「ゆず取りボランティア」

11月20日（木）馬路中学生による地域の特色を生かした柚子収穫のボランティア活動は早９年目となりました。

村内あちら

秋は各種イベントがめじろ押しのため、今回は拡大版で紹介します。

「第17回おらが村・心臓やぶりフルマラソン大会」

10月5日（日）前夜からの雨が降り続き寒い一日となりましたが、参加受付433名のうち365名の方々が完走されました。以下感想をいただきましたので、ご紹介します。「手作りであたたかい大会すばらしい」「元気をもらいました」「あたたかい声援ありがとう」「自然と一体になれた」「馬路の良さが出て素晴らしい」「たのしかった」「中学生のハイタッチうれしかった」「山の中まで応援がすごい」「心に残る大会でした」

「日本で最も美しい村」連合総会

10月7日（火）徳島県上勝町において「日本で最も美しい村」連合の第4回定期総会が開催されました。この連合は、失われつつある農山村の景観や環境・文化を守る活動をしています。また、小さくても輝くオンリーワンを持つ農山村が、自らの町や村に誇りを持って自立し、将来にわたって美しい地域であり続ける取り組みを支援しています。馬路村は加盟を認められ初の参加となりました。

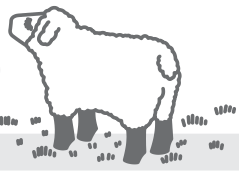
「運動会」

10月12日（日）馬路地区、同月26日（日）には魚梁瀬地区で村民運動会が行われました。馬路地区は3年ぶりに影チームが優勝を勝ち取り、魚梁瀬地区は農協チームが参加2回目にして初優勝を飾りました。

馬路村俳壇

水鳴って秋のとんびは輪をかかず　山﨑喜久子
焚き付けの杉皮拾う秋夕焼　中屋　良子
秋祭り喪明けの餅を搗きにけり　山﨑　裕之
誕生日柊の花匂ひくる　高芝　栄子
食べ飽きて喜びうすき栗の飯　島田　智香
汁椀の底にころびて零余子(むかご)かな　西山　徳裕
遠足に行きて覚えし里神楽　島田　朝彰
霜月や発表会のかたい頬　山本　美幸
フルマラソン老いも若きも声かけて　小松　健児
手をつなぎコスモス迷路の中に入る　氏原　淑
石よけて止めるバイクに紅葉降る　池　蘭子
一服の紫煙のながれ冬田かな　東谷　晴男
迫りくるフルマラソンに胸の音
木枯しの手をとり踊る竜田姫(秋をつかさどる女神)
湯豆腐をつつく笑顔も皺ふかき
満水の湖の青さよ冬の鳶
ストーブの灯りにひとり膝を組む
短日や湖にひと筋風のあと
小春日や柿はぐ姑に見惚(と)れいて
短日の山いくつ越え満願寺
嘴(さし)あとの残る通草(あけび)は欄干に
人声の恋しき日なり豆茶炒る
水音のどこか暮れゆく石蕗(つわ)の花
曇れるは空のみならず石蕗の花

お知らせ



年金だより ◆年金受給者のみなさんへ◆

国民年金・厚生年金保険及び共済組合などから支給される老齢または退職を支給事由とする年金は、所得税法上「雑所得」として課税対象となります。

「公的年金等の源泉徴収票」…老齢年金等の受給者全員に毎年1月下旬に社会保険業務センターより送付されます。

（「源泉徴収票」には、平成20年中に支払われた年金の支払総額、年金から天引きされた国保・介護保険料等の金額、源泉徴収税額及び控除内容などが記載されています。）

【確定申告】

「源泉徴収票」が必要です。大切に保管してください。

【紛失した場合】

お近くの社会保険事務所までご連絡ください。

南国社会保険事務所　☎088−864−1111

※障害年金や遺族年金につきましては、課税の対象となっていないため「源泉徴収票」は発行されません。

製造事業所のみなさまへ

工業統計調査にご協力ください

平成20年工業統計調査を12月31日現在で行います。

調査の実施に当たっては、本年12月から来年１月にかけて調査員がお伺いします。

工業統計は、製造業を営む事業所を対象として、その活動実態を明らかにすることを目的として調査します。

調査結果は、国や地方公共団体の行政施策の重要な基礎資料として利用されるとともに、企業、大学などでの研究資料、小・中・高等学校の教材など、広く利用されているところです。

なお、調査票に記入していただいた内容については、統計法に基づき秘密が厳守されますので、正確なご記入をお願いします。

経済産業省・高知県・馬路村

12月・1月 むらの行事予定

12月		
1	月	
2	火	絵本の読み聞かせ（多目的施設）10:30～11:00
3	水	
4	木	人権を大切にする心を風船の便りで結ぶ集い （馬路小学校校庭）10:00～11:30
5	金	第37回馬路はし拳大会
6	土	馬路熊野神社秋の例大祭 こどもみこし祭り 安芸郡市新人球技大会（野球）
7	日	舞神楽発表会（馬路熊野神社）10:00～
8	月	
9	火	校内持久走大会（馬小）　かっこよくなる男の道場（就業改善センター）18:00～ 保育所交流会（もちつき） 歯科検診（馬路保育所）
10	水	魚梁瀬子育て支援教室（多目的施設）10:00～11:30
11	木	馬路子育て支援教室（交流センター）10:00～11:30
12	金	行政相談（就業改善センター）10:00～12:00 人権相談（就業改善センター）10:00～15:00 乳幼児健診（田野町保健センター）13:00～受付
13	土	第36回馬路村文化祭・第28回村内芸能発表会（～14日・馬路体育館）9:30～ ハミングゆーずクリスマスコンサート（就業改善センター）18:30～ 安芸郡市新人球技大会（バスケットボール）
14	日	安芸郡市新人球技大会（バスケットボール）
15	月	
16	火	絵本の読み聞かせ（交流センター）10:30～11:00
17	水	
18	木	高齢者とのふれあい餅つき（魚中）
19	金	
20	土	安芸郡市新人球技大会（野球）
21	日	冬至
22	月	犬・猫引き取り日
23	火	天皇誕生日
24	水	参観日（通知票渡し） 職場体験・地域調べ学習発表会（馬中）
25	木	終業式 クリスマス会（馬路・魚梁瀬保育所）
26	金	仕事納め
27	土	
28	日	
29	月	
30	火	
31	水	

1月		
1	木	新春走り初めピッタリタイムレース（魚梁瀬）　元旦
2	金	成人式 新春走り初めピッタリタイムレース（馬路）
3	土	
4	日	
5	月	仕事始め 村内保育始め
6	火	
7	水	
8	木	始業式
9	金	行政相談（就業改善センター）10:00～12:00
10	土	
11	日	
12	月	成人の日
13	火	
14	水	魚梁瀬子育て支援教室（多目的施設）10:00～11:30 絵本の読み聞かせ（多目的施設）10:00～10:30
15	木	馬路子育て支援教室（交流センター）10:00～11:30
16	金	乳幼児健診（田野町保健センター）13:00～受付
17	土	第27回村民駅伝競走大会
18	日	
19	月	
20	火	
21	水	
22	木	道徳参観日（馬小） 校外美化活動（魚小）
23	金	1歳6カ月児健診（奈半利町保健センター）13:00～受付 火災避難訓練（馬小）
24	土	
25	日	
26	月	文化財防火訓練（金林寺） 犬・猫引き取り日
27	火	かっこよくなる男の道場（就業改善センター）18:00～ 保育園児一日体験入学（馬小） 絵本の読み聞かせ（交流センター）10:30～11:00
28	水	
29	木	
30	金	
31	土	

人口月中異動	増加				減少				月末現在人口合計
	出生	転入	職権	計	死亡	転出	職権	計	
10月	1	2		3	1	4		5	1,072
11月					1	2		3	1,069

馬　路　831人、361世帯
魚梁瀬　238人、120世帯

馬路村特別村民 2,998人
（11月30日現在）

村内あちらこちら

10月11日　湯けむりピンポン

10月17日　古式弓射式

10月22日　合同学習会

10月29日　森林鉄道昔語り会

10月30日　子育て支援教室

村のできごと

10月

5日　おらが村・心臓やぶりフルマラソン大会
11日　湯けむりピンポン
15日　第28回魚梁瀬地区はし拳大会
12日　馬路地区村民運動会
16日　魚梁瀬熊野神社大祭（～18日）
　　古式弓射式（17日）
22日　村内小・中学校合同学習会
25日　損保ジャパン協働の森交流活動
　　馬路保育所運動会
26日　魚梁瀬地区村民運動会
29日　森林鉄道昔語り会
30日　馬路子育て支援教室
31日　安田川の鮎不漁を考える座談会

11月

1日　安芸郡市中学校駅伝競走大会
2日　ゆずはじまる祭
8日　安芸郡町村職員運動会
9日　山師達人選手権大会
10日　職場体験学習（馬中・魚中）～14日
16日　魚梁瀬の自然体験と温泉観光ツアー
17日　臨時議会
20日　ゆず取りボランティア
21日　みらい塾（深山荘）
30日　第42回馬路村教育研究会

編集後記

以前から魚梁瀬西川の紅葉は奇麗だと聞いたことはありましたが、行ったことがありませんでした。

今回、行く機会があり写真におさめてきたのが表紙の写真です。千本山登山口までの川の両岸、けやき広場、キャンプ場、さらに奥に広がる山々の紅葉、写真では、目で見るような素晴らしさはお伝えできません。来秋は、ぜひ足を運んでいただき赤や黄色に彩られた美しい山々をご覧になってください。（Y）

編集発行▶馬路村役場企画室・教育委員会
住所　〒781-6201　高知県安芸郡馬路村大字馬路443
TEL　0887－44－2557　FAX 0887－44－2779
E-mail　soumu@umajimura.mykochi.jp
印　刷▶高知印刷株式会社